

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群VI 現代社会の諸問題の理解を深め、支援を考える 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点	研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-6-1	危機への理解と支援	I	危機のアセスメントの視点・方法(個人レベル、家族レベル、組織レベル、地域コミュニティレベル、地球レベル)、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点・方法について学ぶ。また、企業における危機対応としての、ポストベンションについて考える。	窪田 由紀(九州産業大学、科研費特任研究員)	◎	58分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-2	危機対応におけるコミュニケーション	I	危機対応におけるコミュニケーションを理解する。具体的には、組織内コミュニケーション、多職種連携におけるコミュニケーション、リスクコミュニケーションの視点・方法および危機対応におけるメンバーや自分自身の心理的状況や行動を振り返る視点・方法について学ぶ。また、支援することは与えることばかりでなく、さりげなく分かち合うことにも喜びがあること、またそこからの学びも多いことも知る。	平井 啓(大阪大学、准教授)	◎	59分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-3	災害における危機対応	I	東日本大震災、阪神淡路大震災等における、危機対応における公認心理師の実践例を通して、災害時において、問題発生状況を理解し、支援活動を行うために必要な視点(現地や現場への尊重等)と具体的方法について考える。	河 嶋 讓(厚生労働省委託事業DPAT事務局次長、医師) 大澤 智子(兵庫県こころのケアセンター、上席研究主幹)	○	38分 38分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-4	貧困の理解	I	我が国における貧困と孤立の現状と課題、貧困と孤立がもたらす社会的不利、貧困と孤立の社会的背景、貧困と孤立への対策の現状と課題について理解する。	松本 伊智朗(北海道大学、名誉教授)	◎	92分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-5	不登校と社会的ひきこもり	I	社会的ひきこもりの現状と課題、不登校(在宅での長期欠席)の現状と課題、社会的ひきこもりの背景、社会的ひきこもり対策の現状と課題について理解する。	伊藤 美奈子(奈良女子大学、教授) 斎藤 環(筑波大学、教授)	○	40分 46分
		II				
		III				
		IV				
		V				

講義群VI つづき 現代社会の諸問題の理解を深め、支援を考える 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点	研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-6-6	自傷について	I	過去に自傷の経験がある者のほとんどが、病院の受診をしていない。また、その一部は自殺企図の経験が認められている。思春期・青年期の人々の自傷は、把握することが難しく、調査研究も十分に行われていない。ここでは、思春期・青年期の人々の自傷の理解と支援について考える。	松本 俊彦(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所、薬物依存研究部部長 (兼任)薬物依存症センター、センター長)	◎	61分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-7	自殺(自死)について	I	昨今、高齢者による自殺が表面化する一方で、児童や青年の自殺が2020年以降、統計上の記録を毎年更新するような深刻な事態となっている。ここでは、児童・青年の自殺(自死)の背景とその多面的な理解をするとともに、それらの事例に対する心理的介入と一次予防の検討も行う。	新井 肇(関西外国語大学、教授)	◎	57分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-8	暴力や加害の背景にあるもの	I	暴力や加害の背景にあるものを理解する。ここでは、①攻撃衝動・性衝動と衝動制御(自律性、共感性、規範意識など)、②暴力と加害の背景にある感情(怒り、恨み、恐怖、不安、劣等感)、認識(支配被支配性の対人認識)、価値観(暴力への親和性、暴力の必要性など)、③暴力と加害の対象(特定、不特定)、目的、手段(直接、間接(器物)、インターネット)、④インフォーマルな関係(対人距離の近さ)と感情(衝動)の行動化、⑤背景(孤立、貧困、被虐待体験、その他)について学ぶ。	藤岡 淳子(大阪大学、名誉教授)	◎	56分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-9	虐待、DV、いじめ、ハラスメント ー弱者への暴力を考えるー	I	虐待、DV、いじめ、ハラスメントの問題を通して、弱者への暴力について考える。ここでは、児童虐待・高齢者虐待・障がい者虐待・家庭内暴力・いじめ・ハラスメントの現状と課題、それらの背景にある支配と被支配性、さらに、虐待にいたる様々な背景について理解する。	中村 正(立命館大学、教授)	◎	75分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-6-10	暴力の世代間伝達	I	暴力の世代伝達の理解は非常に重要であり、目の前のクライアントだけをみていたのではケースの理解はおぼつかない。そこには家族全体の力動、世代間を超えた連鎖などの視点が必要である。世代間連鎖に向かう要件(孤立、二次的問題、生活困窮など)と連鎖を防ぐ要件(信頼できる支援者・友人、支援を受けること、子どもの力(好きなこと、居場所)、親子の情緒的つながりなど)を理解する。	野坂 祐子(大阪大学、教授)	◎	58分
		II				
		III				
		IV				
		V				